

研究科 9月10日（水）

「自然観察の技術と実践」（その2）

講師 北澤 光子氏（技術士 環境部門）

日時 平成26年9月10日（水）10:00～15:00

場所 昭和の森（千葉市緑区土気）

テーマは、自然観察会のネタ（テーマ）探し

「自然観察の技術と実践」講座（講師北澤光子）の様子を特別にレポートする。専攻科で「自然観察の知識と実践」を学び、研究科では「自然観察の技術とそれを活かした実践」について学ぶ。この講座も2回目になる。学んだことを「実践」してみる、それをテーマとする講義は面白かった。

前回は、東京の新宿御苑で同講師の自然観察の技術に接した。本日の講座は、千葉市の昭和の森に出向き、この地の自然を例に自然観察会のプログラムづくりを行うためのものであった。昭和の森を案内しながら、プログラミングのためのヒントを講師は提示してくれる。課題を与えられた受講生は、次回（12月10日開催）、4グループに分かれ昭和の森での自然観察会のプログラムを自分たちで検討し脚本を練り発表することになった。

事前の下見をされたという「昭和の森の自然観察会」の模範演習では、この季節にしか見られないものや珍しい植物などが紹介されて、知的好奇心をくすぐる解説に耳を傾ける。成るほどと頷くことしきり。こんな自然観察会ならこれからも是非参加してみたいと思わせるものであった。その面白さの一部を書き留めてみた。



案内する北澤光子講師



昭和の森の講義会場



“コナラの下に何か落ちていませんか？” 確かにドングリが付いた小枝があちこちに落ちていたが、これが話題になるとは！



枝は切り落とされていた。犯人はドングリを餌にする甲虫。この甲虫が生き残るために枝を切り落としたものだとか！



藪茗荷の前で足を止める。“どうしてヤブミョウガはここに群生しているのでしょうか？” どこにでも見かける光景でもそれが話題になる。



撮影できなかったが、見ているのはフェアリー・リンク（妖精の輪）だ。キノコが輪状に生えている。どうしてサークル状に生えるのだろうか？



一面に花を咲かせていたネジバナ。右回りの捻じれか、左廻りか、講師のアドバイスで観察してみた。



捻じれていないけど、これもネジバナか？



落葉の間に顔を出すギンリョウソウ（銀竜草）。これが植物か！ 腐生植物という珍しい植物を初めて目にした。



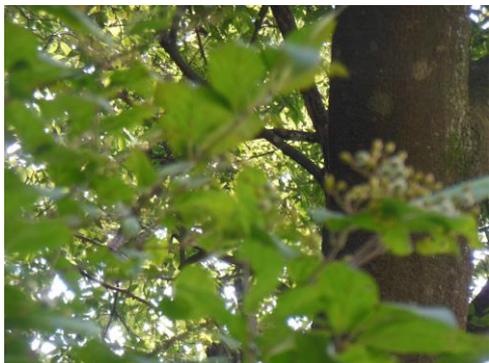
銀色に輝いて見える。始めはキノコかと思った。ユウレイソウと異名もあるとかで、何か気持ち悪いものを見てしまった？



手にするとしっかりした茎だ。漢字で銀竜草と書く。確かに竜の鱗のような葉があった。



カラムシの葉を食い荒らしていた蛾の幼虫（フクラズメ）。危険を察すると、激しく体を揺すり威嚇し続けた。



ガマズミの実であるが、よく観察すると面白いことに気付くという。筆者には判らなかつた。



昭和の森の案内図